

2010年5月10日

株式会社 富士キメラ総研
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414
 URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
 URL:<http://www.fcr.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

中国EMS実態解明の第一歩として
中国のEMS企業53社の調査を実施

メガEMSは欧米系、台湾系、中小EMSは日系、アジア系、中国系

マーケティング&コンサルテーションの株式会社富士キメラ総研（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中一志 03-3664-5839）は、世界同時不況以降、従来の自社開発、自社生産路線からアウトソーシング化を進めるエレクトロニクスメーカーの増加により、電子機器生産においてその立場が注目されているEMSの中国における展開企業53社の実態を調査した。その結果を報告書「2010 EMS in China」にまとめた。

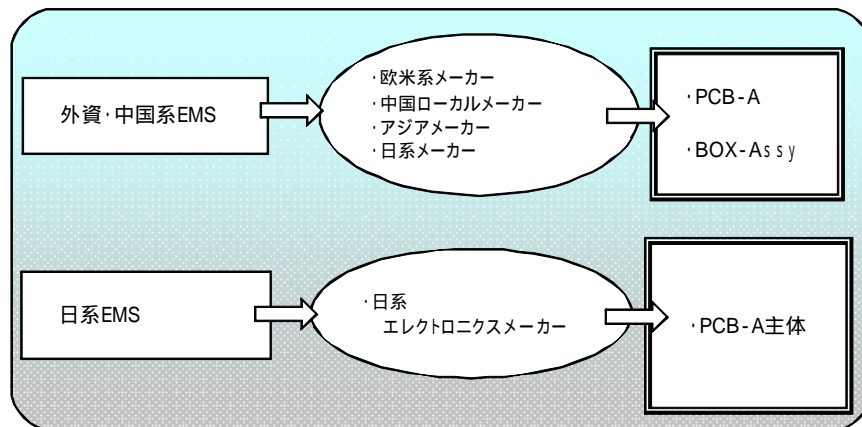
エレクトロニクスメーカーは、ボリュームゾーン製品のローコスト化が一段と進展している現状に対応し自社生産からEMSへ委託する領域を拡大している。この調査では、中国で展開する欧米系、中国、台湾系EMSをメインに各EMSにおける生産状況、部品・材料調達動向を調査し、中国におけるEMS各社の動向を分析した。ただし、中国におけるEMSの実態を解明することはきわめて困難であるが、今回の調査では、その実態の一部を明らかにすることにより中国のEMSの実態解明の第一歩とした。

＜調査結果の概要＞

EMS (Electronics Manufacturing-Service) は、OEM (Original Equipment Manufacturer : 相手先ブランドによる製造) によるエレクトロニクス製品のアウトソーシングを行なう企業スタイルである。EMS事業はエレクトロニクス市場の進展に伴い市場が拡大してきた。EMSは、欧米系が主体であったが、近年、台湾、中国系EMSが急成長、特に台湾の鴻海精密工業 (Foxconn) がEMSのトップ企業となっている。EMSは電子機器のアウトソーシング化とともに製造範囲の拡大 (プリント基板実装→組立→完成品→製品修理)、サービスの拡大 (部品調達→基板設計) により事業領域を拡大している。

EMSは、メーカー系、半導体・電子部品商社系、従来からのサブコン系などに分けられる。メーカー系EMSは生産工場の独立採算を目指し社内事業部の受託生産をする一方、他社からの製品を受注生産する。半導体・電子部品商社系は部品調達のキittingから完成品までの業務を行い、受注先は多方面にわたるケースが多い。

EMSビジネスの受注スタイルは外資・中国系EMSではOEM、ODM (Original Design Manufacturing : 発注元企業のブランドで販売される製品を設計・製造すること) ビジネスの延長であり、PCB (Printed Circuit Board) への部品実装と完成品を受注するケースとがある。とくに台湾、中国、欧米系EMSではこの比率が高くなっている。最終製品 (BOX-Assy) の受注比率はEMS各社の事業スタイルにより異なり、最終製品で受注するウエイトが100%に近いケース、また最終製品の生産のほか、修理などのサービス事業を行なうケースもある。



PCB-A (Printed Circuit Board Assembly : プリント基板への部品実装)

EMSは事業規模によりメガEMSと中小EMSとに分類される。一般にメガEMSは欧米メーカーと近年実績を上げてきている台湾系EMSが該当する。欧米EMSはFLEXTRONICS、Jabil Circuit、Celestica、Sanmina SCIなどであり、台湾系はFoxconnなどのほか、ASUSTEKなどPC、周辺装置などのOEM事業で拡大を続けてきたメーカーが該当する。大手エレクトロニクスメーカーを凌ぐ資材調達量により、部品メーカーに対する価格、納期などに対して影響力を年々強めてきている。中小EMSは世界的規模からみると、日本、アジア、中国系EMSが該当する。EMSは効率的な事業規模での生産が事業存続の鍵となっており、好調な事業を継続してきたEMSが収益悪化を契機に事業売却などに至るケースもたびたび起こっている。

EMSの事業領域はPC・周辺装置、携帯電話、産業用機器、医療機器、半導体製造装置、民生機器などの事業領域まで広がる一方、生産拠点は既存生産拠点に加え買収企業の工場をベースにした新規生産工場の新設ラッシュとなっている。特に、世界の生産工場となった中国での展開が急拡大しており、華南、華中などの中国沿海州地域から、低賃金地域へと生産拠点を広げ始めている。中国は欧米系、中国系、アジア系をはじめ、日系EMSの開発、基板実装、完成品組立の中心地となっている。

中国における電子機器生産と主要なEMSは上海をメインとする長江デルタ経済圏、深圳、東莞などをメインとする珠江デルタ経済圏に点在している。中国政府の内陸地域の開発、沿海州との経済格差是正への動きに対して環渤海湾経済圏、京津経済圏、西部地区経済圏への進出の動きもでてきている。最大の要因は沿海州におけるワーカ一の最低賃金の上昇などである。また、内陸部での雇用水準の上昇などで沿海州への農民工流入が減少し、ワーカ一の確保が難しくなっていることも影響している。

<調査対象>

- 1. 外資・中国系EMS 45社
- 2. 日系EMS 8社

カテゴリ	製品範囲
Consumer	DSC、DVC、携帯電話、DVDプレーヤー、フラットパネルテレビ、デジタルフォトフレーム、ゲーム機、オーディオ製品など
Computer&Storage	デスクトップPC、ノートPC、サーバ、PCモニタ、ストレージ設備など
Business	プリンタ、複写機、スキャナ、MFP、プロジェクタ、ファックスなど
Networking&Telecom	交換機（スイッチ）、ルータ、基地局（BTS）など
Medical&Industrial	各種医療機器（血圧計、体温計、心電測定器）など
Automotive	自動車電子製品、カーオーディオ、車載GPS等
Unit/Module&Others	各種PCBA形態での出荷、カメラモジュールなど

<調査期間>

2009年12月～2010年3月

<調査方法>

富士キメラ総研北京事務所および中国協力調査会社の専門調査員による調査対象・関連企業に対してのヒアリング取材及び関連文献、富士キメラ総研社内データベースの活用による調査・分析

以上

資料タイトル	「2010 EMS in China」		
体 裁	A4判 274頁		
価 格	100,000円（税込み105,000円）		
調査・編集	株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第一研究開発部門 TEL:03-3664-5815 FAX:03-3661-5134		
発 行 所	株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ URL: http://www.fcr.co.jp/		